

実績報告書

令和 4 年 12 月 1 日

(あて先) 富士市長

所在地

名 称

富士子ども劇場

代表者
氏 名

望月 晴美

電話

富士市補助金等交付規則第10条の規定により、関係書類を添えて報告します。

1 補助金額	100,000円
2 事業等の目的	富士子ども劇場は、子ども主体のお祭りを毎年実施してきました。平成19年以来富士市の市民活動支援補助金を受け、市内全ての子ども達を対象に異年齢の子ども達が自由に遊べる創造的な遊び空間を企画してきました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遊び空間や手作りゲームは中止しました。0歳から1,2,3歳の乳幼児とその親を対象としたコンサート「ポロンポロン」を午前中に上演し、同じ劇団による幼児以上も鑑賞できる作品「わいてくるくるおんがっかい」を、富士子ども劇場の会員と共に、広く一般の方たちに参加してもらい、より幅広く多くの親子に観劇の一日を提供します。
3 事業等の着手日	令和 4年 4月
4 事業等の完了日	令和 4年11月
5 事業等の実施場所	富士市交流プラザ多目的ホール
6 参加人数	200名
7 添付書類	<ul style="list-style-type: none">・富士子ども劇場 2022 子どもまつり実績報告書・収支決算書・領収書コピーNo.1～No.9・会場の様子（写真）1～3・アンケート集計結果・子どもアンケートまとめ集・ポスター、チラシ・例会を楽しもう（当日パンフレット）・「ポロンポロン」、「わいてくるくるおんがっかい」チケット・口座振替申請書・富士市市民活動支援補助金請求書
8 成果、反省など	別紙

令和 4年 12月 1日

富士市長 小長井 義正 様

所在地

名前 富士子ども劇場

代表者氏名 望月 晴美

実績報告書

令和 4年度事業として、富士市補助金等交付規則第3条の規定により補助金の交付を受けた事業を完了したので、下記のとおり報告します。

項	記	事
事業の名称	富士子ども劇場 2022子どもまつり	
実施時期	令和 4年 11月 5日（土）、6日（日）	

成果および反省事項

富士子ども劇場では、毎年子どものためのおまつりを実施しています。

2020年度の新型コロナウイルス感染拡大により、今年度も遊び空間や手作りゲームは中止し、親子でコンサートを鑑賞するだけの子どもまつりを開催しました。

公演会場は、従来使用している富士市交流プラザの多目的ホールを使用。家族単位で観劇するスタイルを、余裕をもって出来るように広い空間にしました。感染拡大も増減を繰り返し、感染のリスクに個人差がみられることや、政府の動きにコロナによる制限が見られない事で、主催する側としては以前の鑑賞スタイルに近い環境で開催できること、会場や劇団と打ち合わせを重ねました。

昨年度10月の企画総会で、「2022子どもまつり」は0～3才の乳幼児とその親を対象としたコンサートとしてロバの音楽座の「ポロンポロン」、4才～大人用には「わいてくるくるおんがっかい」を会員と一般の方たちで鑑賞すると決定しました。開演時間の設定で、土曜日の夜と日曜日の午前中を試みてみました。

ロバの音楽座は、50年前から活動している音楽集団で、中世ルネサンスの古楽器を演奏し、演奏活動の他にEテレや映画にも活動の幅を広げる、エンターテイメントアーティストです。

「わいてくるくるおんがっかい」は、5名の奏者が、様々な古楽器や、鈴、ブリキのバケツ、木の実で作った人形などを演奏しながら、歌ったり、軽やかにダンサーがクルクルと踊ったり、耳だけではなく目からも楽しめてくれるプログラムです。手拍子が客席から自然に沸き上がり、子どもも大人も、心穏やかに鑑賞することが出来ました。

「ポロンポロン」は、乳幼児が対象なので、開演時間で苦労しました。乳幼児のいる会員にリサーチし、乳幼児を連れてくるには11時開演が相応しいと決定しました。舞台は楽器を中心に円形に客席を作り、乳幼児はママやパパに抱っこされて座ったり、一人で座ることができる子どもはママやパパの前にしゃがんだり、思い思いな鑑賞スタイルです。こちらも5名の奏者が、乳幼児に話しかけるように演奏や歌声を届けていました。45分間の短いコンサートでしたが、親子で、楽しんでいたようです。

時期としては第8波かと囁かれたころで、でも爆発的な感染力ではなかったですが、検温や消毒はもちろん、参加者名簿も怠れません。無事に2日間を終了出来て良かったです。

反省として、演者の思いと観る側の思いに差があるということがあげられました。曲目で、子どもに顔を近づけて歌ったり、近くに寄って演奏したり、主催者側としては知っていたら曲目を差し替えてもらった方が良かったと思える場面があったようです。個人差があるので、全員が不快に思ったかどうかはわかりませんが、そういう声が寄せられたのは残念でした。

来年度も、「子どもまつり」は実施するつもりで、劇団も会場も押さえています。今年度の成果と反省を生かし、来年度も0～3才の親子に、もっと注目してもらえるように工夫したいと考えています。

【実績報告書に添付】

収支決算書

収入の部

No.	項目	金額(円)	説明
1	富士市補助金	100,000	
2	公演チケット収入	64,300	ボロンボロン 2000円×18 1500円×15 2100円×2 1600円×1
3	公演チケット収入	110,400	わいてくるくるおんがつかい 2000円×51 2100円×4
4	協賛金	20,000	
5	子ども劇場拠出金	234,410	劇場の会費より捻出
6			
合計		529,110	

支出の部

No.	項目	金額(円)	説明	領収書No.
1	会場費	115,540	富士市交流プラザ多目的ホール 1, 2, 3	
2	劇団謝金	368,840	劇団へ（上演料、交通費、食費） 4 小夜食（本番前の軽食） 5	
3	劇団宿泊費	27,500	ビジネスホテル1泊5名 6	
3	ポスターチラシ紙代	17,230	公共機関、幼稚園、保育園配布 7, 8, 9	
4				
5				
6				
合計		529,110		